



プロフィール

栗下昌弘

(1952 年 5 月 31 日生)

くりした まさひろ

医 師

専門分野

産婦人科全般、主に女性医学領域が専門です。聖路加国際病院在職中の 32 年間は周産期医療と更年期医療を専門として診療、レジデント教育に力を注いできました。1997 年、同院にて「更年期外来」創設以後は、産婦人科一般のほか、特殊外来にて更年期障害、更年期うつ病、その他心身医学的な対応が必要な月経前症候群、月経前不快気分障害などの治療、骨粗しょう症の予防と治療を中心に診療に携わってきました。

モットー

心身症である更年期障害を治療する医師には、医学的知識だけではなく、人生経験の積み重ねが求められます。そして何より、患者さんとの信頼関係が欠かせません。診察室に入る前より、出る時には、ちょっとだけでもホットしてもらいたい、そんな思いで日々診察しています。そんな私のモットーは「全人的医療」です。

学位・認定等

医学博士（平成 5 年）
日本産科婦人科学会専門医
日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医
日本医師会認定産業医
日本心身医学会認定心身医療「産婦人科」専門医

学歴

私立 開成高校

1968 年 4 月 - 1971 年 3 月

医学部に進んだのは、医学を取り上げた科学の単行本に興味をひかれ、人間ってなんだろう、自分ってなんだろうと思ったのがきっかけです。そんな頃にヒューマンイズムの塊みたいなクローニンの全集を読みふけたことが進む道を決定づけました。

国立（現国立大学法人） 京都大学医学部

1971 年 4 月 - 1977 年 3 月

産婦人科に進んだそもそもの経緯は母が子宮内膜症を患ったことに関係していると思います。学生の頃は心身医学と救急にも興味がありましたが、産婦人科であれば、救急もあるし、心身医学とも関係がある。今から考えれば単純ですが、そう考えて産婦人科に進むこととしました。実際やってみてこんな面白い仕事はないと思い、今日まで 40 年以上続けています。

職務経歴

財団法人聖路加国際病院産婦人科（現・学校法人聖路加国際大学 聖路加国際病院女性総合診療部）

1977 年 04 月 レジデントとして入職

2000 年 12 月 - 2009 年 06 月 産婦人科（現・女性総合診療部）医長等

医療法人鉄蕉会 亀田総合病院幕張事業部産婦人科

2009 年 08 月 - 2010 年 06 月 産婦人科部長

国家公務員共済組合連合会 東京共済病院

2010 年 07 月 - 2016 年 09 月 婦人科部長

医療法人社団廣和会 藤本クリニック

2017 年 01 月 - 2019 年 03 月 内科、リハビリ科、婦人科を担当

現在、独立行政法人労働者健康安全機構 福島労災病院（木・金曜日）、愛生会内科・婦人科クリニック（月曜日）にて勤務。

所属学会

日本産科婦人科学会 日本女性医学学会
日本骨粗鬆症学会 日本心身医学会
日本女性心身医学会 日本森田療法学会

栗下昌弘 主な業績のご案内

教育活動

2001年4月 - 2014年7月 立教大学コミュニティー福祉学部 兼任講師 「医学概論」を担当

この経験を通して、医学部以外の学生が医学や性感染症を学ぶことの重要性・有用性を感じています。今後もライフワークとしてこうした取り組みを続けたいと思っています。

【2013年度前期・月曜日開講の講義内容の事例】

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1. イントロダクション | 8. 障害の概要① |
| 2. 人の成長と発達 身体構造と心身の機能① | 9. 障害の概要② |
| 3. 人の成長と発達 身体構造と心身の機能② | 10. 障害の概要③ |
| 4. 人の成長と発達 身体構造と心身の機能③ | 11. リハビリテーションの概要 |
| 5. 疾病の概要① | 12. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要 |
| 6. 疾病の概要② | 13. 特別講義「性感染症（STI）と避妊」 |
| 7. 疾病の概要③ | 14. 健康のとらえ方と日本の人口統計 |

論文

Kurishita M, Nakashima K, Kozu H. Glycated hemoglobin of fractionated erythrocytes, glycated albumin, and plasma fructosamine during pregnancy. American Journal of Obstetrics and Gynecology. 1992; 167:1372-1378.

（「妊婦における分画赤血球 HbA1c, 糖化アルブミン, フルクトサミンの動態」：本論文で東邦大学より博士学位を授与される）

Kurishita M, Nakashima K, Kozu H. A Retrospective Study of Glucose Metabolism in Mothers of Large Babies. Diabetes Care. 1994; 17:649-652.

栗下昌弘「産婦人科医の介入により産後うつ病が改善した1症例」『心療内科』13（3）：239-244, 2009

栗下昌弘「乳癌合併妊娠における乳房温存療法」『日産婦関東連合誌』47：9-15, 2010

栗下昌弘「更年期障害の心理社会的因子と発症仮説」『日本心療内科学会誌』16：152-159, 2012

栗下昌弘「尋常性ざ瘡の治療に使用したスピロノラクトンが、月経随伴症状の緩和に有効であった子宮腺筋症の1症例」『関東連合産科婦人科学会誌』50：135-142, 2013. ほか

セミナー活動

2008年4月 - 2010年11月 ファイザー株式会社主催「女性の体と心のケアを考える会」座長

3年間、年2回、当該分野の臨床と研究に携わる医師たちの情報交換と交流の場をファイザー株式会社のご協力を得て座長として開催しました。

出版・新聞（含む、紹介記事等）

福井準之助・栗下昌弘・原田晴美（監修）「更年期-50歳からの健康・美肌（聖路加国際病院健康講座）」（双葉社・2003年9月）

栗下昌弘「クリニカルトレーニング 産婦人科」（医学教育出版社・2006年2月）

栗下昌弘「更年期を健やかに」（一般向け啓蒙活動として・公明新聞 コラム 21回連載・2013年10月-2014年3月）

栗下昌弘「更年期医療に関わる医師より皆様にお伝えしたいこと」（日本女子大学桜楓新報・2020年7・11月、2021年3月）

「AYA clinic 一性の悩み相談 ワンコインデー」（朝日新聞・2020年6月27日 夕刊・社会面掲載）

「現場へ！一赤ちゃんを遺棄した就活生—女性とからだ（1）」（朝日新聞・2021年2月8日 夕刊・NEWSplus α掲載）ほか

趣味・その他

好きなことは読書と旅行。現在は、仕事の合間にジムやヨガ、ピラティスに通って心身を鍛えています。